

学校図書館が変わっています

本を借りる場所から、学びと心を支える場所へ

南あわじ市の学校図書館は、
“学ぶ楽しさ”のスイッチを入れてくれる場所へ
調べる、考える、出会う、つながる。
毎日の学びがもっと楽しく、自分の未来が広がっていきます。



リニューアル後の
児童・生徒の声

本が探しやすくて、
読みたかった本に出会えた！

明るくなって、
学校図書館に行くことが楽しい。

本とタブレットが
使えて、授業にすごく役立つ！

友だちと話したり、
一人でゆっくりしたり、居心地がいい！

1 **本に出会う
読書センター機能**

読みたい本に出会うことで、
読書はもっと楽しくなります。
本を通じて知識が広がり、
心が豊かになります。

2 **考えが広がる
学習センター機能**

授業や探究で必要な情報を
集め、考え、まとめ、
発表する力を育みます。
学びが深まり、自分の考
えを形にできます。

3 **情報を使いこなす
情報センター機能**

資料や情報を上手に使う力を
育てます。地図・雑誌・二次元
コード・データベースなどデジ
タルと紙の資料を活用し、正し
く情報をつかむ力をつけます。

4 **ほっとできる
みんなの居場所**

友だちと話したり、一人
でゆっくりしたり、誰も
が安心して過ごせる、
みんなの居場所です。

学校図書館から、生涯の学びへ

学校図書館は、子どもたちに読書習慣や情報活用能力を育成する場であり、
公立図書館はその学びを学校卒業後も支える機関です。
学校図書館と公立図書館の連携は、子どもたちを将来の公共図書館利用者、
ひいては生涯学習者へと育成する役割を担っています。



人生
100年時代

「子ども」も「大人」も楽しく学び続ける
“学ぶ楽しさ日本一”を
学校図書館・公立図書館で実現します！



特集



みんなの学校図書館

南あわじ市の学校図書館は、今、大きく変わり始めています。読書の場としてだけでなく、授業で学び、調べ、考え、安心して過ごせる場へ。学校司書の配置や学校図書館リニューアルを通して、子どもたちの学びを支える学校図書館づくりを進めています。

図学校教育課 ☎ 43-5231

これまでの学校図書館の課題

- 学習用資料としての活用が少ない**
必要な本や資料の探し方が分かりにくい状況がありました。
- 読書好きの人だけの場所になりがち**
本を読むだけの場所として受けとめられ幅広い活用につなげにくい面がありました。
- 館内整理や運営に十分な時間をかけにくい**
教員が運営を担っていたため、授業対応などの中で、学校図書館整備に十分な時間を確保しにくい状況がありました。

学校司書を配置しています

「学校司書」は、学校図書館の運営を担当する専門職員です。図書の整理や読書案内だけでなく、学習用資料の準備など、授業や探究学習を支える役割を担います。



令和8年度の配置状況（市内）

小学校 14校・中学校 4校 週1回6時間勤務
広田小学校・南淡中学校 週2回6時間×2日勤務

学校司書の思い

学校図書館は「本と人」「人と人」がつながる場所です。読書の楽しさを広げ、調べる力を育て、安心して過ごせる居場所にしたいです。



学校図書館とは？

学校図書館は資料・職員・機能を備えた学校図書館法に基づく学校設備の正式名称です。
「読書センター」「学習センター」「情報センター」3つの機能を備えています。



図書司書のつぶやき・・・

- 朝の読書の学級文庫を用意しています。図書委員の人が学級の要望を聞いて本を選ぶ手伝いをしてくれて助かっています。
- 〇〇先生からブック・ウーマンと呼ばれています。図書のことと相談していただくことがうれしいです。
- 図書の時間に子どもたちどうして絵本の読み聞かせをする時間をとっています。みんないきいきと活動しています。
- 調べ学習の際、学校図書館で本とタブレットのハイブリッドで授業をされていました。事前に相談があり図書を揃えました。
- 読み聞かせや防災・卒業などのテーマをもとにしたブックトークの手伝いをさせてもらいました。
- いつもと違い元気のない子がいました。リクエストの本を読み聞かせると笑顔がもどり担任に様子を伝えました。

◆現状は、週1日の勤務で学校図書館運営の支援で手一杯な状況です。教員との連携を限られた時間でどのように行っていくかが課題です。